

## 安全への道案内 / トピックス 09 | 電線の色について

Q

電気機器内部に使用する電線の色には何らかの規則や規制などがあるのでしょうか。




A

電線の色に関しましては、それぞれの国や地域により規則や規制は異なりますが、その電線がどのような電源回路に接続されているのかが識別できるようになっております。

配色において重視されるのがアース線であります。

その必要の無い特定の機器を除き、機器内部で起こりうる故障などによる感電や火災から保護する上で重要な役割を果たすものを、保護アース (Protective Earth) または、グラウンディング (Grounding) といい、電線の被覆は「緑／黄色のストライプ」または「緑色」を使用することが安全規格などで要求されております。

北米の一般家庭用コンセントには、アース線が付いておりますが、それに接続する電源コードの中の電線は、以下のように配色されております。

- アース電線 : 緑／黄色または緑色 
- 中性線<sup>注1</sup> : 白色または乳白色 
- L線<sup>注2</sup> : 黒色 

注1) 中性線とは、ニュートラル線 (Neutral Line) のことで、大地と同電位に接続された電源線であり、電気工事規定においては、アース線と同様に配色が規定されております。

注2) L線とは、電源線の供給側の電線のことで、配色は規定されておきませんが、中性線と相対する色として、主に「黒色」が使用されております。